

兵庫県 の 取組 から みる 生成 AI の 展望

兵庫県 企画部 情報政策課

1. はじめに

人間の言葉や行動、思考を学習し、新たなコンテンツや解決策を生成するAI、それが生成AIです。近年、それは単なる夢や映画の話から現実のものとなり、その可能性が広く認識され始めています。ビジネスからエンターテインメント、教育、医療、そして行政と、生成AIの活用範囲は日々広がっています。

しかし、一方で、その発展は新たな課題をもたらしています。

2. 活用にあたっての課題

生成AIの活用には、いくつかの課題と注意点が存在します。まず一つ目は、AIが出力する結果の信頼性です。生成AIの出力は、その学習データやアルゴリズムにより大きく左右されます。出力結果に偏りがあったり、事実と異なる結果を出力したりする可能性があります。二つ目の課題は、個人情報取り扱いです。生成AIが個人の行動パターンや好みを学習する場合、それは個人

情報保護に触れる可能性があります。そして三つ目の注意点として、生成AIが出力するコンテンツが、他の著作物を引用または模倣する場合、著作権侵害にあたる可能性があります。生成AIの出力を公開または商用利用する際には、著作権を尊重するために必要な対策が求められます。

3. 対応策と今後の展望

これらの課題と注意点に対する対策として、まずAIが出力する結果の信頼性については、その結果をそのまま活用するのではなく、適切なチェックや加工を行うことが求められます。

次に、生成AIへの入力データに個人情報を含まないように注意することが重要です。プロンプトとして入力した情報は生成AIに学習される可能性がありますがあり、それが個人情報である場合、その情報が漏洩するリスクがあるからです。

そして、著作権に関しては、生成AIの出力を適切に改変・修正し、その上で生成AIを利用した旨を明記するなどの対策が必要です。

これらの対策を行うことで、生成AIの活用はさらに進化し、多様な業種での活用が見込まれます。その活用範囲は、ビジネス、エンターテインメント、医療、行政など多岐にわたります。特に、行政の分野では、事務作業の効率化による働き方改革が期待されています。

4. 本原稿の作成にあたって

実は、ここまでのほぼ全ての文章が、生成AI（GPT-4）により出力された文章です。

一部人間の手で修正を加えています。生成AIから出力された文章は違和感なく読むことができましたのではないのでしょうか。

普段であれば、2000字を超える文章を書くとなると、通常業務の合間を縫いながらの作業となり、多くの時間がかかってしまいます。しかし、本原稿の作成にあたっては、生成AIを活用することで、プロット・執筆・校正の作業を合計で3時間程度に収めることができました。

我々行政の世界では、業務の中で数多くの文章



写真1：PT研修風景



写真2：アイデアソンin神戸大学～しごとに活かそう生成AI風景

に詳しい弁護士法人に監修していただき、情報漏洩のリスクを理解したうえで利用してもらうため、入力不可情報の範囲を明示するなど、利用者目線に立つて、安全性と利用促進のバランスに配慮しています。また、「プロンプト集」や「Q&A集」を付録として作成しており、すぐにでも実務に活用できる内容となっております。

行政に限らず、様々な分野・業界で活用を進めようとしている組織が多いかと思えます。しかし、どれだけルールや環境を整えても、活用の機運が組織内で急激に高まることはありません。重要なポイントはいかに生成AIに興味を持ってもらい、使ってみようと思わせることができるか、というところにあると考えています。そのため、兵庫県では今まさに高まりつつある機運をさらに盛り上げるため、コミュニティへの情報発信、参加しやすい空気づくり、イベントなどを今後も企画していく予定です。生成AIは、これからさらに進化・発展を遂げていきます。県行政を含め様々な分野・業界も、こうした最新技術の発展を積極的に受け入れ成長していく必要があるのではないのでしょうか。

を作成する必要があります。しかし、人手不足の中、忙しい上司や同僚に対して、文章について気軽に相談することは難しく、一人で頭を抱えながら多くの時間を消費してしまう職員も少なくありません。人口減少・超高齢化で課題も山積する中、業務をより効率化し、より良いアイデアの創出を行うため、生成AIを始めとした最新技術を使いこなす、行政の質の更なる向上を図らなければなりません。

5. 兵庫県の取組

そこで兵庫県は、若手職員を中心としたChatGPT等生成AI活用検討プロジェクトチーム（以下、「PT」という。）を令和5年5月に立ち上げました。

PTでは、月に1回程度の定期会議を開催し、庁内利用ガイドラインを作成するために様々な観点から議論を交わしました。また、アドバイザーを講師とした研修会を実施し、PTメンバーの一人一人が生成AIの活用をリードする人材として技術・知識を学んだことで、現在も様々な部署で活用が広がっています。他にも神戸大学の学生や教職員と開催したアイデアソンでは、仕事や生活での活用アイデアを議論しました。異なる業界の職員と学生が混じるグループで生まれる議論は新鮮であり、興味深いアイデアが生まれました。

4度のPT定期会議を経て10月に「兵庫県生成AI利用ガイドライン」を公表しました。生成AI

ガイドラインの公表後は、「Microsoft Teams」上に「ヒョウゴ生成AIラボ」を立ち上げました。これまでの若手職員を中心とした限定的な集まりではなく、生成AIに興味がある職員向けに、業界の最新情報や研修・セミナー情報を発信しており、参加者同士が気軽に議論・情報共有することのできるコミュニケーションの場として運営しています。執筆時点では様々な職位・職種の約400名が参加し、参加者が載せたコメントをもとにざっくりばらんな議論が生まれるなど、生成AI活用の機運も徐々に高まっています。

6. おわりに